

### 3 本道の地域特性

本道の地域特性について、「地理的特性」、「経済・産業的特性」、「社会的特性」の3つの観点から取りまとめると、次のとおりとなります。

#### ◆地理的特性

##### 地 勢

- 日本列島の最北（北緯41度21分～45度33分）に位置し、面積は83,424km<sup>2</sup>（平成28年10月1日現在）で、国土の約22.1%を占めています。
- 山地が全体のほぼ半分を占めていますが、全国と比較すると山地や傾斜地が少なく、なだらかな土地が多いのが特徴です。
- 河川は、321水系、2,025河川、延長約15,400kmの河川（平成30年3月現在、法河川及び準用河川）のほか、普通河川も14,600程度あり、概ね良好な水質を維持しています。
- 周囲は、太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、対馬海流とリマン海流、日本海流と千島海流がそれぞれ交差しているため、世界有数の漁場となっています。

##### 自然・気候

- 四季の変化がはっきりしており、独自の自然と文化を持っています。
- 自然に恵まれ、6つの国立公園と5つの国定公園、12の道立自然公園があり、その総面積は約8,700km<sup>2</sup>で、本道全体の約1割を占めます。
- 年平均気温は6～10℃程度、年平均降水量は700～1,700mm程度で、冷涼低湿な気候ですが、地域によってかなり違いがあります。

#### ◆経済・産業的特性

##### 経済・産業構造

- 道内総生産の産業別構成比は、第1次産業が4.1%、第2次産業が16.9%、第3次産業が79.0%で、全国と比べ第1次産業と第3次産業が高くなっています。  
本道の地勢や冷涼な気候、3つの特性ある海が、第1次産業である農業、林業、水産業を育て、その各産業から生まれる良質な食資源が、国内外からの多くの観光客を本道に誘引しています。また、様々な規模の自然公園等に生息する動植物、厳しい冬の町並みを覆う雪景色と良質なパウダースノーを活かしたスキーリゾート、道東に現れる流氷など、国内でも本道でしか体験できない貴重な自然の素材が、多くの観光客を魅了するなど、サービス業を含む第3次産業にも効果を与えています。  
産業構造の近年の構成は次のとおりです。

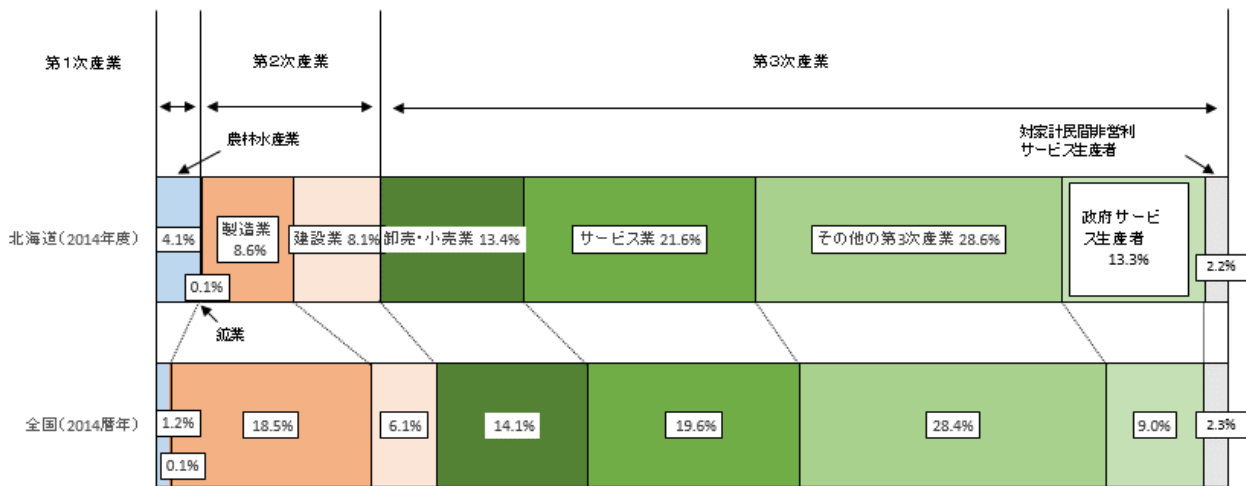


図3-1 道内総生産の産業別構成比

注：輸入品に課せられる税・関税等を含むため、構成比の合計は100とならない。

資料：「平成26年度道民経済計算年報」（北海道経済部）、「平成26年度国民経済計算確報」（内閣府）

## 農業

- 平成29年の耕地面積は約115万haで、全国の1/4を占めています。
- 主業農家率は73.7%と他の都府県の21.0%を大きく上回り、専門的な農家が大規模で生産性の高い土地利用型農業を展開しています。
- 平成28年の農業産出額は1兆2,115億円と全国の約13%を占めるほか、多くの農畜産物が全国第1位の生産量となっています。



図3-2 農業産出額

農林水産省「平成28年度生産農業所得統計」

## 林業

- 森林面積は約554万ha（平成28年4月現在）で、道内の土地面積（北方領土を除く）の71%、全国の森林面積の22%を占めています。
- 林種別では、天然林が68%と最も多く、次いで人工林27%、無立木地・その他5%となっており、天然林の多さが特徴です。
- 平成27年度の木材供給量は、道産材が387万m<sup>3</sup>、輸入材が298万m<sup>3</sup>となっており、道産材自給率は56.5%となっています。

## 林種別



図3-3 森林面積

北海道水産林務部「平成27年度北海道林業統計」

## 水産業

- 平成27年の海面漁業・養殖業の生産量は107万t、3,116億円で、都道府県別で第1位の生産規模となっており、魚種別では、ホタテガイやスケトウダラなどが都道府県別で第1位の生産となっています。
- 水産加工業における出荷額は6,678億円で、全国の21.6%を占めており、漁業生産と合わせて水産業は本道の基幹産業の一つとなっています。

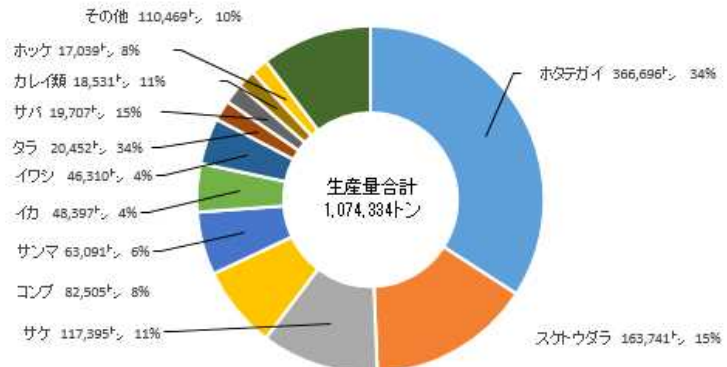


図3-4 海面漁業・養殖業の生産量  
北海道水産林務部「平成27年北海道水産現勢」(生体重量)

## 観光

- 平成28年度の観光入込客数(実人数)は、5,466万人、訪日外国人来道者数は230万人となっています。
- 道民、道外客、外国人来道者による総観光消費額は年間約1兆4,300億円にのぼり、生産波及効果は約2兆900億円と推計されます。

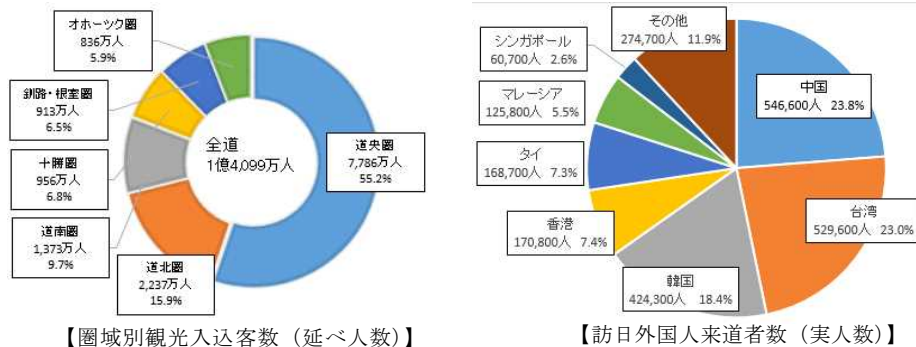


図3-5 観光入込客数、訪日外国人来道者数  
北海道経済部「北海道観光入込客数調査[平成28年度]」

## ◆社会的特性

### 生活・健康

- 本道は、他の都府県に比べ、広大な土地に人口や産業拠点、主要観光地などが分散し、各地域の主要都市間の距離が長いことが大きな特徴となっています。道民の日常生活を支えるとともに、本道の産業や観光の振興、さらには災害時における円滑な復旧活動の推進などに向け、道路網の整備など交通ネットワークの形成・充実が進められています。
- 農山漁村などの集落が3,600を超えており、暑さに弱いとされる高齢者の率が人口の50%を超える集落が900以上あります(H29北海道集落实態調査)。
- 道内の水道普及率は98.3%(平成27年度)で、全国水準(97.7%)に達しており、近年はほぼ横ばいで推移しています。
- 下水道処理人口普及率は90.9%(平成28年度末現在)となっており、全国で第6位となっています。